

# 癌とナツパ・青汁食

医学博士 遠藤 仁郎 述

## 癌とナツパ・青汁食

難病中の難病といわれる癌。できることなら、かかりたくない。

これだけすすんだ医学でも、発癌物にとりかこまれている現在。いまだに、適確な予防法はなく、かかったらなるべく早く見つけ出して、根こそぎ切りとってしまうこと。とされているが、これとて、うまく成功するのは、ごく初期の、小さくて数の少ない間だけ。大きくなつていたり、多くなつていけば、強力な放射線や抗癌剤の力をかゝるなど、いろいろ手をつくしても、仲々むづかしいことは、よく知られているとおり。

それが、なんと、ほかの難病のばあいと同様、ナツパ・青汁食（イモ・マメ・ナツパ・青汁食）を熱心に行っていると、どうやら、めつたにかかからないようだし、存外、悪性度がかゝるく、進行がおそい。手術しても、出血や痛みが少なく、術後の疲労や発熱もないか、少なく、再発も少ない。

放射線や抗癌剤の治療にみられる厄介な副作用も少ないか、ほとんどない。

また、すでに転移があり、とてもながくはなからうと思われたのが、五年、一〇年はおろか、二〇年もそれ以上も、何事もなく元気に生きている例。

青汁を飲んでいる間はよかつたが、やめると急速に悪化したり、再発する例。

あるいは、手術不能とされ、放射線や抗癌剤でしか治療できない全身性多発性の癌。たとえば、悪性リン

